

037 小林敏生家文書目録と目録作成について

『須坂人物誌』によると、小林家は代々剣術をもって知られ、要右衛門季阿は直心影流の達人で、天保年間には御目付役兼剣術師範であった。門人帳には、文化から明治までに 151 人が記されるという。

季阿二男季定は、文政 12 年に生まれ、元服して仙八郎季定と名乗った。父から嘉永 5 年に剣道免許を受け、須坂藩御側勤となり、藩主直武に従って江戸勤番、やがて、文久元年 11 月直虎藩政改革には密命を受けて肅正に活躍した。翌 2 年要右衛門と改名を命じられ、直虎の側近に登用された。明治維新の動乱の中で新政権の総野出兵の命を受けて善戦し、須坂藩賞典 5 千石を受ける働きをした。

季定は明治 34 年に死去したが、長男鍊吉は医師となり、以後当家は現当主敏生氏まで代々医師を継いでいる。

今回、目録化した史料は、坂田町の故小林忠治氏が借用したものと思われる。そのままになっていたものを、当時、宮川孝男博物館長が引き継いで、目録化し返却の予定であったが、これまたその意を遂げないまま他界し、市誌編さん室に持ち込まれたものである。

小林家の史料を「037 小林敏生家文書」として作成し、『須坂市域の史料目録』の整理番号「037」に位置づけた。

須坂藩に務める季定要右衛門が次第に要職についていく姿がよくわかる貴重な史料である。書簡類も多く、宛先がわかるものから並べ、外は便宜上束にくくった。史料総数はおおよそ 62 点である。

2013 年 1 月

須坂市誌編さん室